



文化財保護センターだより

第18号

平成9年3月1日

財団法人 岐阜県文化財保護センター

〒500 岐阜県岐阜市司町1(岐阜総合庁舎内)

TEL058-264-1111(代)
FAX058-264-0343

●もくじ

表紙	下有知遺跡群の水田遺構……………1
調査	野笹遺跡、上原遺跡 丸山遺跡発掘調査状況……………2
コラム	兵庫県の震災復興調査に携わって…………4

トピックス	「大型船」を描いた線刻絵画土器…………5
まとめ	平成8年度岐阜県内発掘調査…………6
声・記録	下有知遺跡群現場から……………8
	センター日誌ほか



下有知遺跡の水田遺構

関テクノハイランド造成事業に伴う下有知遺跡群（関市下有知地内）の発掘調査は、平成7年12月から試掘調査を開始し、8年8月から本調査を行っています。

水田域の発掘調査では、中世の水田100枚余りと古代の溝数条などの遺構を検出しました。上の写真は、中世の水田遺構を検出している作業の様子です。また、本年2月からの丘陵部の調査では、弥生時代から古墳時代を中心とする遺構の検出が期待されます。

発掘調査状況



当センターでは、本年度、地元関係機関や多数の方々のご協力をいただき、県内10市町村17遺跡で発掘調査を行ってきました。このうち3遺跡の発掘調査の状況をお知らせします。

のぞき ■野笹遺跡（美濃加茂市野笹町）

本遺跡は、美濃加茂市野笹町に所在し、木曾川右岸の河岸段丘の2番目に低い段丘面に立地しています。

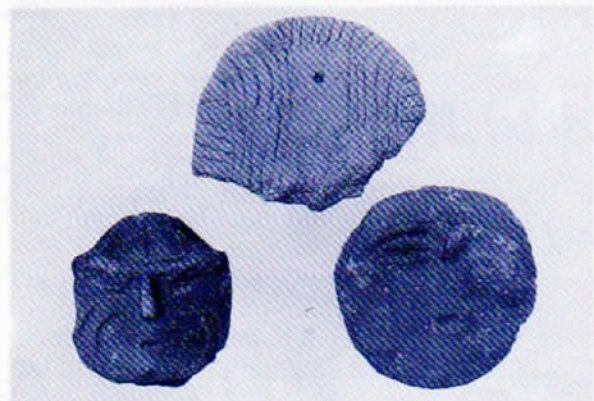
この遺跡の発掘調査は、国道248号線改良工事に伴うもので、平成8年5月から実施しています。現在までの調査によって、縄文時代から江戸時代にわたる遺構や遺物を検出しました。

◆縄文時代の土偶や土版が出土

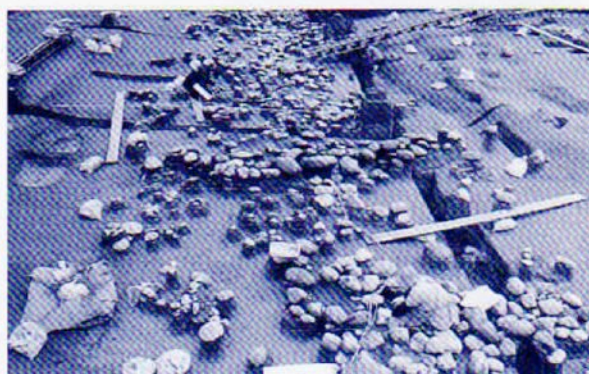
縄文時代の遺構は検出されていませんが、縄文時代中期から晩期（約5,000～2,300年前）を中心とする縄文土器や石鏃・石錐・石錘などの石器類が大量に出土しました。

そのなかで、後期から晩期のもものと推定される土偶2点、晩期のもものと推定される土版1点が出土しました。土偶は、頭部がほぼ完全な形で出土しました。そのうちの1点は、割れ面の形から仮面（土面）をかぶったものであった可能性が考えられます。残りの1点は、頭部は薄くできており、顔には入れ墨が施されています。

土版は粘土を板状にしたもので、1/2しか残存していませんでしたが、縦、横約7cmの大きさです。表面には彫刻を施して焼き上げた呪術的色彩の濃い土製品で、土偶と同様に祭事などで使用されたと考えられます。東北地方や関東地方に多く見られますが、県内では初めての出土です。



野笹遺跡出土 土版(上)・土偶



野笹遺跡 敷石遺構検出状況

◆12世紀頃の敷石遺構を検出

調査区域のほぼ中央部で、東西に延びる幅約10mの流路を検出しました。この流路の川底の部分には、人の頭ぐらいの大きさの河原石が数百個びっしりと敷き詰められていました。さらに、流路の中央付近には、幅80cm、高さ30cmほどの一段高い石積みが堰のように、流路を横切る形で積み上げられていました。また、この堰の上流側には、流路の水を取り入れるための取水口と思われる遺構があり、そこから別の溝が伸びているのを確認しました。これらのことから、一段高い石積みで流路の水をせき止め、別の溝の方へ水を引き込んでいたと考えられます。

また、堰と思われる石積み以外の他の敷石は、流路のほぼ中央に敷かれていました。河原石は石の上の面が全体に平らになるように、ほぼ同じ高さに敷かれていました。このことから、この敷石遺構は、流路の中で当時の人々が作業をする際の足場にしていただのではないかと考えられます。

流路や取水施設からは、山茶碗が多量に出土しており、その形式から、敷石遺構は12世紀頃に造られたものと考えられます。

このような河原石を使った流路の大工事は、中世の終わり頃には多く見られますが、12世紀頃の遺構としては全国的にも例がなく、興味深いものと言えます。

あげほら

■上原遺跡 (揖斐郡藤橋村)

本遺跡は、旧徳山村本郷集落から約1 km揖斐川をさかのぼった右岸段丘上にある、徳山地区では最大の面積を持つ6つの地点からなる遺跡です。徳山ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査により、今年度は、上原遺跡第1地点の3,400㎡を調査しました。その結果、**竪穴住居跡**などの遺構の検出や約1万点の遺物の出土をみました。

◆縄文時代前期後葉の竪穴住居跡3軒を検出

今年度の調査では、竪穴住居跡3軒を検出しました。これらは**出土する遺物**から判断して、いずれも縄文時代前期後葉の時期(約5,300~5,000年前)と考えられます。竪穴の形は、浅い皿状にゆるやかにくぼむものや地面を斜めに60~70cmほど掘り下げて床面が平らな鉢状のものなど様々です。そのうちの1軒からは**石囲炉**と思われる遺構が検出され、この時期のものとしてはこの地方にあまり例を見ない貴重な発見と言えます。

この結果、それぞれの住居跡が同時期に存在したかどうかについては、今後なお検討の余地がありますが、第1地点は縄文時代前期後葉の集落遺跡であったことが確かめられました。

◆石製装身具の玦状耳飾が出土

今年度の調査により、6点の**玦状耳飾**が出土しました。昨年度からの出土品を含めると全部で10点になります。玦状耳飾とは、石製の装身具の一種で、耳たぶに孔を開けて装着したと考えられるものです。「縄文前期にすでに社会内部に階層差もしくは身分・役割上に差があったと推測できる



上原遺跡出土 玦状耳飾と使用想像図

石製品」ととらえている研究者もいます。

いずれも完形品ではありませんが、想定できるその形は円形・三角形・四角形などと多様で、石材も滑石や瑪瑙など多種にわたります。中には補修してまで使用したと考えられる孔が開けられているものもあり、この耳飾りが当時の人にとって大変貴重なものであったことがうかがえます。

◆徳山初の弥生時代中期の土器が出土

徳山での今までの調査で出土した弥生時代の遺物は前期のものばかりでしたが、今回の調査で中期のものと考えられる土器片が2点出土しました。これまで徳山では弥生時代中期以降平安時代前半にいたる期間の遺物が出土しないことなどから、この時期にこの地に人々が生活していた可能性は低いと言われてきました。そうした点から考えると、今回の出土は、徳山の歴史の中で空白となっていたこの時期にも、この地域に何らかの形で人々が足を踏み入れたことをうかがわせるもので、徳山の歴史を解明していく上で大きな意義を持つ発見と言えます。

まるやま

■丸山遺跡 (大野郡丹生川村)

丹生川ダム建設に伴う発掘調査は4年目を迎え、今年度が現地調査の最終年度となりました。これまでに調査した遺跡数は5遺跡です。

丸山遺跡はその一つで、丹生川村折敷地五味原の荒城川上流右岸に位置し、標高は850~860mです。2,500㎡を調査し、約2万点の土器・石器などの遺物と縄文時代の竪穴住居跡3軒、貯蔵穴61基などが検出されました。住居跡は、縄文時代早期末と推定されるものが1軒、中期前葉のものが2軒です。遺物の出土状況などから縄文時代早期末から中期前葉を中心とする遺跡と考えられます。

◆琥珀玉が出土

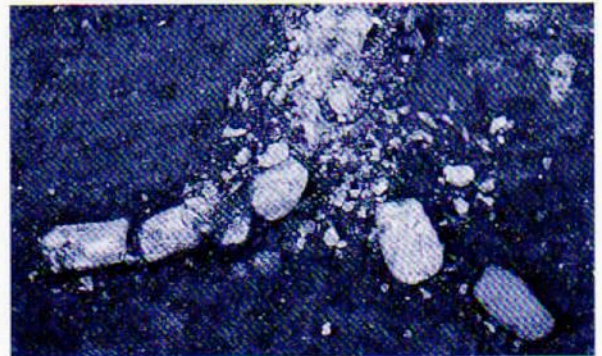
出土遺物のなかで注目されるのは、縄文時代中期前葉の土坑墓から出土した琥珀玉です。縄文時代の琥珀製品の出土例は全国的にも余り多くなく、県内では初めての出土例です。縄文時代の遺跡から

出土する琥珀製品は、日光や空気に長い間ふれるともろくなり、ごくわずかの衝撃でも砕けてしまうため、検出が難しいと言われています。本遺跡の琥珀玉も出土した6個のうち、2個は残念ながら発見した際に砕けてしまい、4個だけが完形に近い状態で検出することができました。

琥珀玉は、遺跡の北東部にある楕円形（110×90cm）の土坑墓の底から6個連なった状態で出土しました。1個の大きさは長さ3.7cm、最大径2.7cmで、色は黄褐色です。長軸に沿って孔が開けられていました。ひものようなもので、数珠のように連ねて使用した装身具と思われます。

琥珀は鉱物ではなく、松、杉、檜などの植物の樹脂が変質し、化石化したものです。比較的軟らかく、爪で引っかいても傷がつくほどです。比重も軽く海水に浮くものもあります。

縄文時代の琥珀製品の出土例は、東北地方や関東地方に片寄っています。近県では、山梨県に3遺跡、長野県に7遺跡の報告例があります。琥珀の国内産地としては、岩手県久慈市、福島県いわき市、千葉県銚子市、岐阜県瑞浪市などが知られています。本遺跡から出土した琥珀玉の産地は今のところ不明ですが、縄文時代の琥珀の流通経路を考える上でも貴重な資料と言えます。



丸山遺跡出土 琥珀玉

■兵庫県の震災復興調査に携わって



■兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所 復興調査班 小淵 忠司

昨年4月から、阪神・淡路大震災復興支援のために兵庫県へ派遣され、復興調査班の一員として遺跡の発掘調査に従事しています。全国から集まった支援職員や地元の方々とともに力を合わせて、被災地の復興に伴う発掘調査という困難な仕事に取り組んできました。

この1年間に、伊丹市、明石市、三田市などで調査を行ってきましたが、現在は、打出小槌遺跡第23地点の調査を担当しています。本遺跡は、芦屋市の市街地に位置しており、現場のすぐ北隣には阪神電車が走り、南方約100mには昨年10月ようやく全線が復旧した阪神高速神戸線が見えています。中世の遺構が検出されると予想されており、また下層からは古墳時代にまでさかのぼる遺物が出土することがわかっています。

震災から2年余り過ぎた現在でも、震災の傷跡は癒えていません。私の住んでいる神戸市内の宿

舎から歩いて5分くらいのところにも仮設住宅が並んでいます。調査地点周辺も地震で大きな被害を受けた地域です。仮設店舗や更地がいたる所に残っています。復興を円滑に進めるために、私たちは調査を速やかに完了させるよう最善を尽くす必要があります。今の調査現場にも調査完了後に市営住宅が建設される予定となっています。こうした復興の最前線での発掘調査は、これからまだまだ続きます。



打出小槌遺跡を調査中の小淵さん(中央)

「大型船」を描いた線刻絵画土器 トピックス

(大垣市・荒尾南遺跡)

◆方形周溝墓から出土した線刻絵画土器

平成6年度に発掘調査を実施した大垣市松町の荒尾南遺跡から線刻の描いてある弥生時代の壺型土器が出土しました。

本遺跡は、弥生時代から古墳時代にかけての遺跡です。調査によって、周囲に四角く溝をめぐらした方形周溝墓が4基検出され、土器片や農耕用の木製品など約5万点が出土しました。線刻絵画土器は、弥生時代後期(約1,800年前)のものと考えられる方形周溝墓の溝から出土しました。出土した時には、土器の破片がバラバラに散らばっていましたが、整理作業の結果、ほぼ完全な形に復元できました。

◆「大型船」を強調した絵

復元された壺形土器は、高さ17cm、口径12.4cm、胴部分の最大径21.2cmです。そして、胴部の中央をほぼ一周するように、ヘラで線が刻まれていました。最も胴が張り出した部分に2本のほぼ平行な長い横線が描かれていて、さらにその横線から上下に縦線が何本も引かれ、縦線の先は木の葉状に描かれています。この2本の横線の両端には、逆三角形で模様のある帆のようなものと、さらにその下の方に船のようなものが見られます。また木の葉状のものが先に描かれている縦線は、船の櫂(オール)と考えられます。このようなオールの描き方は、弥生時代に見られる船を描いた線刻絵画土器に共通したものです。



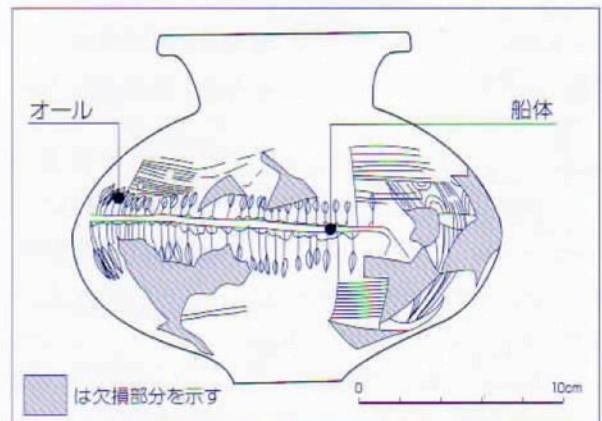
周溝から出土した土器の検出状況

現在、線刻絵画土器の出土例は、全国で約300例ほどあり、その絵はシカや人などが大半で、船が描かれたものは10数例だけです。しかもそれはいずれもオールの数が30本以下ですが、本遺跡で出土した土器の船の絵には、確認できるだけでオールが82本もあり、このような大型船を描いたものはこれまでに例をみないものであることがわかりました。この土器が作られた当時、これだけ大きな船が実在していたとは思われません。この絵の解釈について、「大型船を強調して描いたものではないか。」という意見で、弥生時代の絵画に詳しい研究者は一致しています。

今回のように、大型船が強調されて描かれた絵画と、その土器がほぼ完全な形で発見された例はなく、全国的に見ても貴重な資料として注目されます。



荒尾南遺跡出土 線刻絵画土器



平成8年度 岐阜県内埋蔵文化財発掘調査

平成9年1月31日現在

遺跡名(所在地)	調査主体	調査の主な時代	主な遺構・遺物など
加納城跡(三の丸) (岐阜市加納東丸)	岐阜市教育委員会	中世 近世	溝(戦国)、堀跡、井戸跡、石垣 土師皿、陶磁器、瓦ほか
城之内遺跡 (岐阜市長良城之内)	(財)岐阜市教育文化振興事業団	古墳時代	竪穴住居跡、井戸跡 須恵器、土師器ほか
前渡猿尾堤 (各務原市前渡西町)	各務原市教育委員会	近世(江戸)	木曾川の小堤
野口庵寺D地区 (各務原市新栄町)	各務原市教育委員会	白鳳～ 奈良時代	土坑 軒丸瓦、軒平瓦、須恵器
三つ塚遺跡 (各務原市鶴沼羽場町)	各務原市教育委員会	中世(室町)～ 近世(江戸)	溝、柱穴 縄文土器、石器、山茶碗
承国寺遺跡 (各務原市鶴沼古市場町)	各務原市教育委員会	中世(室町)	土壘、溝、柱穴、土坑 古瀬戸、瓦、土師皿、磚瓦
船山北古窯跡群 (各務原市須衛町)	(財)岐阜県文化財保護センター	平安時代	須恵器窯、附帯施設 須恵器ほか
船来山古墳群 (糸貫町、本巣町、岐阜市)	糸貫町本巣町船来山古墳群発掘調査団 (財)岐阜市教育文化振興事業団	古墳時代	古墳(竪穴系横口式石室ほか)計197基 方形板草綴短甲、金銅製三輪玉、大刀、鉄製馬具、埴輪ほか
曾根城跡 (大垣市曾根町)	大垣市教育委員会	奈良時代～ 中世(室町)	井戸、柱穴、土坑、溝 須恵器、土師器、緑釉陶器
昼飯大塚古墳 (大垣市昼飯町)	大垣市教育委員会	古墳時代	くびれ部と後円部墳頂の調査(葺石) 埴輪(円筒・朝顔・家・器財)
松遺跡 (大垣市松町)	大垣市教育委員会	平安時代～ 中世(室町)	杭、掘立柱建物跡、井戸、溝 灰釉、緑釉、土師器、山茶碗 鍛冶関連遺物(鉄滓・ふいご羽口・砥石ほか)、鏡、木器、施釉陶器
荒尾南遺跡 (大垣市松町)	大垣市教育委員会	弥生時代～ 古墳時代	弥生土器、土師器、木器
美濃国分寺跡 (大垣市青野町)	大垣市教育委員会		(調査中)
小関御祭田遺跡 (関ヶ原町小関)	(財)岐阜県文化財保護センター	縄文時代	竪穴住居跡、集石遺構 縄文土器、石器ほか
美濃国府跡 (垂井町府中)	垂井町教育委員会 三重大学	奈良時代～ 平安時代	脇殿関連遺構、柵列 須恵器、灰釉陶器
願成寺西墳之越51号・52号墳 (池田町願成寺)	池田町教育委員会	古墳時代	円墳(二段築成、葺石・周溝) 土師器(甕)、須恵器
本郷城跡 (池田町本郷)	池田町教育委員会	中世	整地層の検出 土師器、灰釉陶器、中近世陶器
二ノ井遺跡・南高野古墳 (池田町片山)	(財)岐阜県文化財保護センター	古墳時代～ 中世	埋没古墳、溝、中世墓 弥生土器、須恵器、土師器、灰釉陶器、山茶碗、古銭ほか
片山城跡・城ヶ谷7号墳 (池田町片山)	(財)岐阜県文化財保護センター	古墳時代 中世	円墳(横穴式石室) 須恵器、土師器、中近世陶器
堂ヶ洞16・18号墳 (大野町野)	大野町教育委員会	古墳時代	円墳(周溝) 須恵器、土師器、金環
三ヶ原3・5・6号墳 (大野町野)	大野町教育委員会	古墳時代	円墳(周溝) 須恵器(平瓶)、鉄鏃、刀子、空玉 (調査中)
象鼻山1号墳 (養老町橋爪)	養老町教育委員会 富山大学	古墳時代 (3世紀後半)	前方後方墳(一部二段築成、葺石、石敷墓道) 土師器
上原遺跡 (藤橋村徳山)	(財)岐阜県文化財保護センター	縄文時代	竪穴住居跡(縄文前期)ほか 縄文土器、弥生土器、石器、石製品(块状耳飾)ほか
塚奥山遺跡 (藤橋村徳山)	(財)岐阜県文化財保護センター	縄文時代	縄文土器、石器ほか
細野遺跡 (春日村美東)	(財)岐阜県文化財保護センター	縄文時代	集石遺構 縄文土器、石器、山茶碗ほか
梨子谷遺跡 (春日村美東)	(財)岐阜県文化財保護センター	縄文時代	集石遺構 縄文土器、石器ほか
宮上遺跡 (春日村六合)	(財)岐阜県文化財保護センター	縄文時代	縄文土器、石器
弥勒寺東遺跡 (関市池尻)	関市教育委員会	奈良時代～ 中世(鎌倉)	大型建物跡(奈良～平安)、溝跡、柱穴 須恵器、灰釉陶器、中近世陶器
西原敷遺跡 (関市池尻)	(財)岐阜県文化財保護センター	中世(室町)～ 近世(江戸)	水田関連遺構(中近世) 須恵器、灰釉陶器、土師器、山茶碗ほか
下有知遺跡群 (関市下有知)	(財)岐阜県文化財保護センター	奈良・平安時代 中世	水田関連遺構(中世)、溝(奈良・平安) 須恵器、土師器、灰釉陶器、山茶碗ほか
渡来川北遺跡群 (美濃市大矢田)	美濃市教育委員会	中世	掘立柱建物跡 石器(旧石器)、山茶碗ほか

遺跡名(所在地)	調査主体	調査の主な時代	主な遺構・遺物など
改田遺跡 (美濃市極楽寺)	美濃市教育委員会	中世	掘立柱建物跡、土坑墓 山茶碗、中世陶器
市橋北野遺跡 (美濃加茂市加茂野町)	美濃加茂市教育委員会	旧石器時代 縄文時代	ナイフ形石器、細石刃、縄文土器
尾崎遺跡 (美濃加茂市蜂屋町)	美濃加茂市教育委員会	奈良時代～ 中世	竪穴住居跡(奈良) 縄文土器、弥生土器、須恵器、土師器、山茶碗
牧野小山遺跡 (美濃加茂市牧野)	(財)岐阜県文化財保護センター	縄文時代～ 中世	土坑墓(縄文)、竪穴住居・掘立柱建物跡(奈良～平安)、溝 須恵器、土師器ほか
野笹遺跡 (美濃加茂市野笹町)	(財)岐阜県文化財保護センター	縄文時代～ 中世	竪穴住居跡(弥生・古墳)、敷石遺構(中世)ほか 縄文土器、弥生土器、須恵器、土師器、山茶碗、土偶、土版
東山浦遺跡 (富加町滝田)	富加町教育委員会	古墳時代 奈良時代	竪穴住居跡(古墳～奈良) 須恵器、土師器ほか
大王寺南古墳 (御嵩町古屋敷)	御嵩町教育委員会	古墳時代	古墳(横穴式石室) 須恵器、山茶碗
白土原15号古窯跡 (多治見市昭栄町)	多治見市教育委員会	平安時代	白瓷窯 灰釉陶器
又助窯 (多治見市坂上町)	多治見市教育委員会	近代	登り窯の物原(明治) 染付の磁器
小泉町7丁目遺跡 (多治見市小泉町)	多治見市教育委員会	平安時代～ 中世	溝状遺構、杭列 須恵器、土師器、灰釉陶器、山茶碗
平田遺跡 (多治見市大平町)	多治見市教育委員会	平安時代～ 中世	掘立柱建物跡、ピット・土坑多数 須恵器、土師器、灰釉陶器、山茶碗
喜多町西遺跡 (多治見市喜多町)	多治見市教育委員会	弥生時代～ 古墳時代	竪穴住居跡16軒 弥生土器、須恵器、土師器
大針台4-5号窯跡 (多治見市大針町)	多治見市教育委員会	平安時代～ 中世	山茶碗窯(平安末・鎌倉) 山茶碗
北小木古窯跡群 (多治見市北小木町)	多治見市教育委員会	中世	山茶碗窯20数基 山茶碗
大沢13号古窯跡ほか (多治見市大沢町)	(財)岐阜県文化財保護センター	中世	山茶碗窯 山茶碗
大草遺跡 (土岐市管木町)	土岐市教育委員会	縄文時代	縄文土器、石器、須恵器、中近世陶器ほか
元屋敷陶器窯跡 (土岐市泉町)	土岐市教育委員会	中世 近世	大窯(16世紀末)、作業場、住居跡(近世) 中近世陶器
大井城跡 (恵那市大井町)	恵那市教育委員会	中世 近代	城の横堀(戦国)、舞台の地下通路(明治初期) 漆器、灯明皿ほか
市神社遺跡 (恵那市大井町)	恵那市教育委員会	近世 近代	礎石建物跡 陶磁器
寺平遺跡・正家庵寺 (恵那市長島町)	恵那市教育委員会	奈良時代 平安時代	金堂跡基壇 須恵器、灰釉陶器、鉄釘ほか
上村川流域遺跡群 (上矢作町下)	上矢作町教育委員会	縄文時代～ 中世(鎌倉)	配石遺構、伊跡ほか 縄文土器、弥生土器、須恵器、山茶碗、施釉陶器ほか
小御所遺跡 (上矢作町下)	上矢作町教育委員会	縄文時代	竪穴住居跡、土坑 縄文土器、石器ほか
中切上野遺跡 (高山市中切町)	高山市教育委員会	縄文時代	竪穴住居跡16軒 縄文土器(浅鉢ほか)、石器ほか
三仏寺庵寺 (高山市三福寺町)	高山市教育委員会	白鳳時代	軒丸瓦(裏面に布目跡)、軒平瓦ほか
与島古墳群 (高山市上切町)	(財)岐阜県文化財保護センター	古墳時代	円墳3基(横穴式石室、外護列石) 須恵器、土師器、鉄製品、耳環
藤ノ木遺跡 (国府町木管垣内)	国府町教育委員会	古墳時代 平安時代	竪穴住居跡(古墳時代)、掘立柱建物跡(古墳～平安)、溝跡 須恵器、土師器ほか
石丸遺跡 (国府町三日町)	国府町教育委員会	弥生時代 古墳時代	竪穴住居跡、掘立柱建物跡(古墳時代)、溝跡 須恵器、土師器ほか
直道遺跡 (国府町三日町)	国府町教育委員会	古墳時代	竪穴住居跡
尾崎城跡 (丹生川村町方)	丹生川村教育委員会	中世	空堀、土塁、円形土坑墓、柱穴、溝 中世陶器、中国製磁器
たのもと遺跡 (丹生川村折敷地)	(財)岐阜県文化財保護センター	縄文時代	竪穴住居跡(後期) 縄文土器、石器、灰釉陶器
丸山遺跡 (丹生川村折敷地)	(財)岐阜県文化財保護センター	縄文時代	竪穴住居跡(早期・中期)、土坑墓、貯蔵穴 縄文土器、石器、琥珀製玉ほか

※試掘調査を除く



発掘作業に参加して

昨年3月のある日、「出た！」とおばちゃんが大はしゃぎ。土器のかけらであった。初めて出た遺物に私も仲間の方々も先生も笑顔である。その感動はとても言葉に表せないものであった。あの感動を大切に明日もがんばります。

センター日誌

- 10.3 全国埋文協研修会（山形市～4）
- 4 高山市教委田中氏・宮川村教委林氏ほか上原・塚奥山遺跡視察
- 8 全国埋文協中部北陸コンピュータ等委員会（金沢市～9）
- 9 顔戸南遺跡、北小木古窯跡現地調査終了
- 10 都立大山田助教授、国府整理所来所
- 11 浜松市博物館鈴木氏・静岡県埋文研中嶋氏、本部整理所来所
- 12 愛知県埋文セ赤塚氏・愛知大加納氏・名古屋市教委村木氏・豊田市教委森氏・豊橋市教委賀氏・岐阜市教育文化振興事業団内堀氏ほか、本部整理所来所
- 15 東海四県名古屋埋文担当者会議
- 16 三重大八賀教授、西屋敷遺跡調査指導
- 18 富山市教委藤田氏ほか丸山遺跡視察
- 19 丸山・たのもと遺跡現地説明会（105名参加）
- 20 北方町入町10周年記念「徳山村展」（北方町立図書館～11/24）
- 23 三重大八賀教授、二ノ井遺跡調査指導
- 24 全国埋文協中部北陸ブロック連絡会（長野市～25）
- 30 三重大八賀教授、上原・塚奥山遺跡調査指導
- 31 多治見市文財セ山内氏、本部整理所関連指導
- 11.8 丸山・たのもと遺跡現地調査終了
- 15 富山大宇野教授、野笹遺跡調査指導
- 19 奈文研伊藤氏、穂積整理所来所
- 22 各務原市埋文セ渡辺氏、穂積整理所来所
- 25 東海四県名古屋埋文担当者会議
- 26 三重大八賀教授、二ノ井遺跡調査指導 金沢市教委南氏、穂積整理所来所
- 27 各務原市埋文セ渡辺氏、本部整理所来所 当センター調査部職員村瀬、奈文研専門研修「環境考古課程」参加（～12/11）
- 29 徳山現地調査終了
- 30 野笹遺跡現地説明会（129名参加）
- 12.1 飛騨考古学会員、飛騨出張所来所
- 3 各務原市埋文セ大熊氏、穂積整理所来所
- 10 牧野小山遺跡現地調査終了
- 11 岡谷市教委田氏ほか、飛騨出張所来所
- 12 各務原市埋文セ渡辺氏、飛騨出張所来所
- 13 三重大八賀教授、西屋敷遺跡調査指導 大垣市教委中井氏、穂積整理所来所
- 17 各務原市埋文セ渡辺氏、本部整理所関連指導
- 24 三重大八賀教授、西屋敷遺跡調査指導
- 1.7 垂井町教委鈴木氏ほか、二ノ井遺跡視察
- 11 三重大八賀教授、二ノ井遺跡調査指導
- 13 垂井町教委清水社会教育課長ほか、二ノ井遺跡視察
- 16 明和高校森教諭、野笹遺跡関連指導
- 17 愛知県陶磁資料館井上氏、穂積整理所関連指導 県博物館鹿野氏、野笹遺跡視察
- 18 西屋敷遺跡現地説明会（110名参加）
- 20 各務原市埋文セ渡辺氏、西屋敷遺跡視察 垂井町教委原田氏、二ノ井遺跡視察
- 21 三重大八賀教授、二ノ井遺跡調査指導 中世城館跡調査研修会（～23）木曾郡町村会埋文保護専門指導員神村氏、牧野小山遺跡視察

下有知遺跡群（関市）発掘調査現場の作業員さん



十数世紀前の遺物と一期一会の出会いを求めて、今日も仲間とともに遺跡の土にまみれています。土器の破片を手のひらにのせ、いにしえに思いをはせるのも、発掘作業にたずさわる幸せと言えるでしょう。俳句の材料も豊富です。

小鳥来る 試掘の藪の 岩かげに

発掘の職場で働いて約1年になりますが、今でもわからないことばかりです。でも、遺物のほかに水田跡から足跡も出ましたので、今日は何が出るかなと楽しい毎日です。

一土に 手ごたえ念じ 冬の空

あとがき

本年度、当センターでは県内10市町村に所在する17遺跡の発掘調査と、12遺跡の整理作業に取り組んできました。これらの業務は、記録保存として後世に伝えなければならないものだけに、改めてその責務の重さを感じる1年間でした。

また、本年度、この業務を遂行するために、約500人の補助調査員、発掘作業員、整理作業員の方々のお力添えをいただきました。そして、本号にも紹介したような声を数多くいただき感謝しております。

今、木々の間で美しい声で鳴いているウグイスが山へ帰るころ、来年度の発掘調査に順次取りかかります。